

米ヌカ除草を
確実に効かせる
トラトラ層づくり

米ヌカボカシをまいて表層2cm耕起 ホントに草は生えなかつた

井手教義



レーザーで耕深2cmに設定して平均に半不耕起

イネの有機栽培にとって除草ほど大変な仕事はありません。

私も有機栽培を始めて二十数年になります。しかし、いまだに除草に苦勞をしています。しかし、全国各地でいろんな方法が研究され、努力されていますから、だいぶ先が見えてきたように思われます。

ボカシで草の発芽を早めて、
浅耕＋二回浅代かき

私の方法を紹介したいと思います。私の水田は一八町歩の規模ですが、全面積に自家製造のボカシ堆肥を使用します。ボカシは原料に米ヌカ・オカ

ラ・大豆クズ・魚粕などを使用して、微生物で発酵させて作ります。

秋にイネの収穫が終わった後で、一反歩に一〇〇kgほど散布。そして春耕起前に再び一〇〇kgをまいて、表層2cmほどを浅く耕起します。トラクタはゴムクローラですから深くなりにくいので、表層に微生物を利用したボカシ肥料を入れることで、雑草の種子の発芽が早まります。

次に水を張って、雑草の発芽を待ちます。一〇日ほどたって発芽を確認したら、浅代かき。また水を張って発芽を促し、田植え二日前にもう一度代かきをして完全に草を殺し、田植えしま



筆者

す。耕起も代かきも、レーザー光線を利用して2cmに設定するので、とにかく浅く均平に仕上がります。

表層がわいても、イネの根はその下に入るので安全

耕深2cmにするのは私なりに理由があります。浅耕すれば、イナワラは表層にあります。ボカシもまいてありますから、水を入れれば必ずわいて、有機酸が発生します。このときに、イネの苗を植えるわけですから、なるべく影響が少ないように、逃げ場があったほうが良いと考えます。2cmの下、耕起していないところまで根が届くように田植えします。苗はポットの成苗です。

差がはつきり出た！

深耕で雑草多発・

浅耕で除草剤並みに抑草

昨年おもしろい経験をしました。私のところでは一〇年くらい前からスガノ農機のプラウとレベラーを使用して均平を行なってきました。均平がとれた田んぼでは、三年くらい前から順次2cmの浅耕をするようになっていたのですが、昨年はまだ均平がとれていない5haほどを、一五cmの深さにプラウ耕しました。表層のワラなどは完全に一五cm近くの深い層に埋まりました。昨年この二つの田んぼで、イネの初期生育と抑草効果に、はつきりと差が出たのです。

深耕した田んぼでは、空気が中に入らなくて乾土効果が出、出来過ぎになりました。元肥をゼロにしました。イネの初期生育はやはり非常によかったのですが、雑草も元気がよくて、多く発

生して困りました。

いっぽう浅耕した田んぼでは表面がブカブカにわいてトロトロになり、初期発芽の雑草に対しては除草剤並みの効果がありました。イネの生育も初期には抑えられたと思いますが、後期には順調で収量にも問題ありませんでした。今後は、後期に発芽する雑草が課題です（私の場合はアイガモに任せます。三月号一二四ページ）。

表層のワラを活かすことで除草になる。自然は自分の死後の残骸までも種族の繁栄に役立つようにできていることを教わりました。

アジアモンスーン地帯の稲作文化の中で、作物残渣であるイナワラ、モミガラ、米ヌカやその他の有機物を利用し、それに休閑期を利用して作りだす緑肥を加えて稲作を行なうことは最も基本で、私たちが守るべき一番重要な技術であると思います。

（秋田県南秋田郡大湯村西一 四 一三）